

浅間山

○火山活動度レベル（平成 18 年 8 月）

2（やや活発な火山活動）

○概況（平成 18 年 8 月）

噴煙活動は引き続きやや活発で、火山活動はやや活発な状態が続いています。

今後も山頂火口付近に影響する程度の小規模な噴火が発生する可能性があります。

表 1 浅間山 火山情報の発表状況（平成 18 年 8 月）

火山情報名	発表日時	概要	レベル
火山観測情報第 31 号 ～ 火山観測情報第 34 号	毎週金曜日 16 時 00 分 定期的に発表	最近の火山活動評価、火山活動の状況（噴煙・火映・地震・微動・地殻変動・火山ガス）	2



図 1 浅間山 噴煙の状況（2006 年 8 月 31 日、鬼押出し遠望カメラによる）

この資料は気象庁のほか、国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所、陸上自衛隊第 12 旅団、東京大学、独立行政法人産業技術総合研究所及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータ等も利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

○噴煙および火映の状況

山頂火口からの噴煙活動は引き続きやや活発で、噴煙高度は火口縁上100～200mで推移しました（図 1、図 2、図 3、図 4 - 、表 2 ）。

今期間、火映¹⁾は観測されませんでした（図 4 - 、表 2 ）。

1) 上昇した溶岩や火山ガスにより火口内が高温になった場合に、火口上の雲や噴煙が明るく照らされる現象。

○火山ガス（二酸化硫黄）放出の状況

29 日に実施した観測では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 100～200 トンで、前回（7 月 13 日 300～600 トン/日）と比較してやや減少しました。（図 4 - 、表 2 ）。

○山頂火口内の熱の状況

31 日に実施した上空からの観測（群馬県の協力による）では、火口内に噴煙が充満していたため火口底の様子などの詳しい状況は確認できませんでしたが、火口底全体の温度分布²⁾に特段の変化はありませんでした（図 3）。火口内の最高温度は 280^{2)、3)}で、前回の上空からの観測（2006 年 4 月 26 日約 450²⁾）と比較して低下傾向が認められましたが、火口内は依然として高温状態が続いています（図 3、図 4 - 、表 2 ）。

2) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所から温度を測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

3) 今回の観測時には火口内に噴煙が充満していたため、測定温度は実際よりも低い可能性があります。

○地震および微動の発生状況

火山性地震は、日回数が 2～13 回とやや少ない状態で経過しました（図 4 - ～、表 2）。発生した地震のほとんどは周期の長い特徴を持つ BL 型地震（波形例は図 7 を参照）で、震源が求まった地震は 1 つしかありませんが、ほとんどが山頂火口直下のごく浅いところに発生していたと推定されます。また、BL 型地震のほかに、周期の短い特徴を持つ BH 型地震（波形例は図 7 を参照）も少数ながら発生していました。

今期間、火山性微動は観測されませんでした（図 4 - 、表 2 ）。

○地殻変動の状況

山体周辺の GPS 連続観測（図 4 - ）では、特段の変化はありませんでした。

このほか、傾斜観測⁴⁾や光波測距観測⁵⁾（図 4 - ）でも、火山活動の高まりを示すような変化はありませんでした。

4) 傾斜計を用いて山体の膨張や収縮による地面の傾きを観測しています。

5) 光波距離計を用いて山体に設置した反射鏡までの距離を測定し、山体の膨張や収縮による距離の変化を観測しています。



図2 浅間山 山頂火口の噴煙の状況（2006年8月2日、北東上空から撮影）

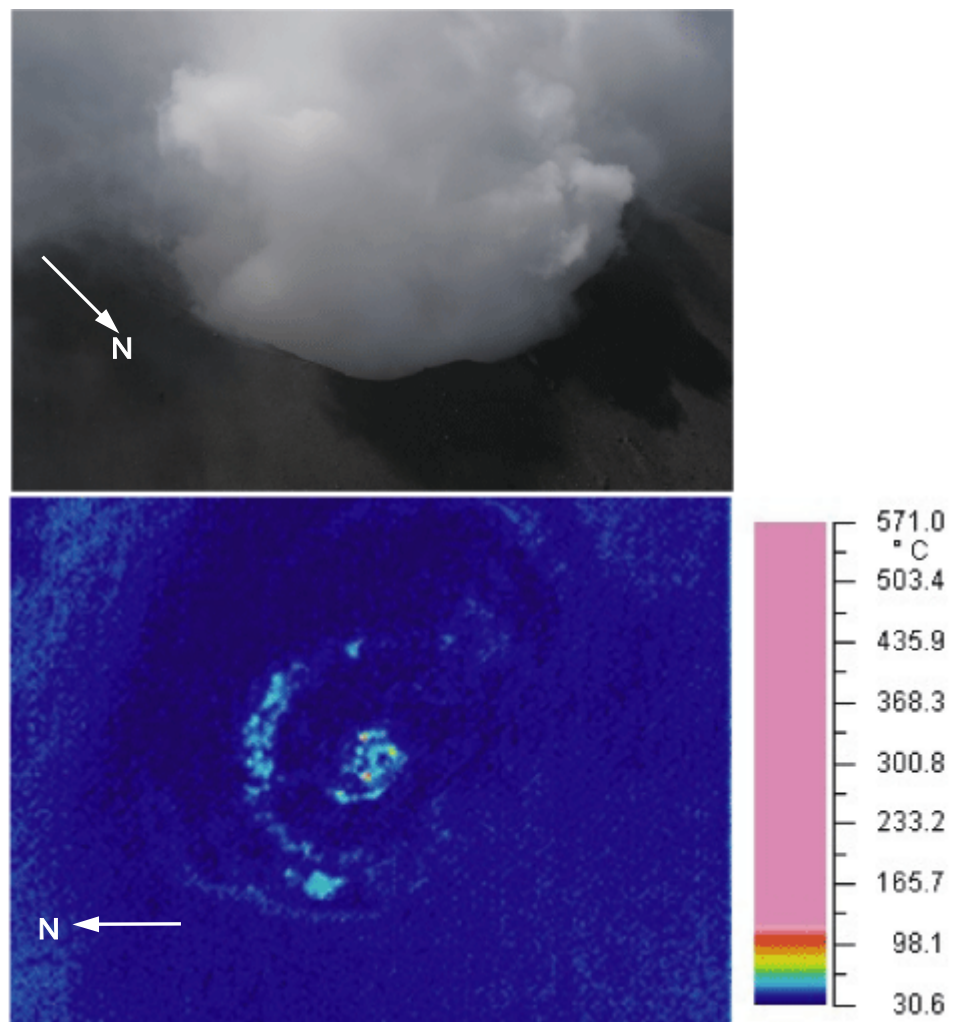


図3 浅間山 山頂火口の状況（2006年8月31日、群馬県の協力による）
上段：可視画像（北東上空から撮影）
下段：赤外熱映像装置²⁾による温度分布（西上空から撮影）

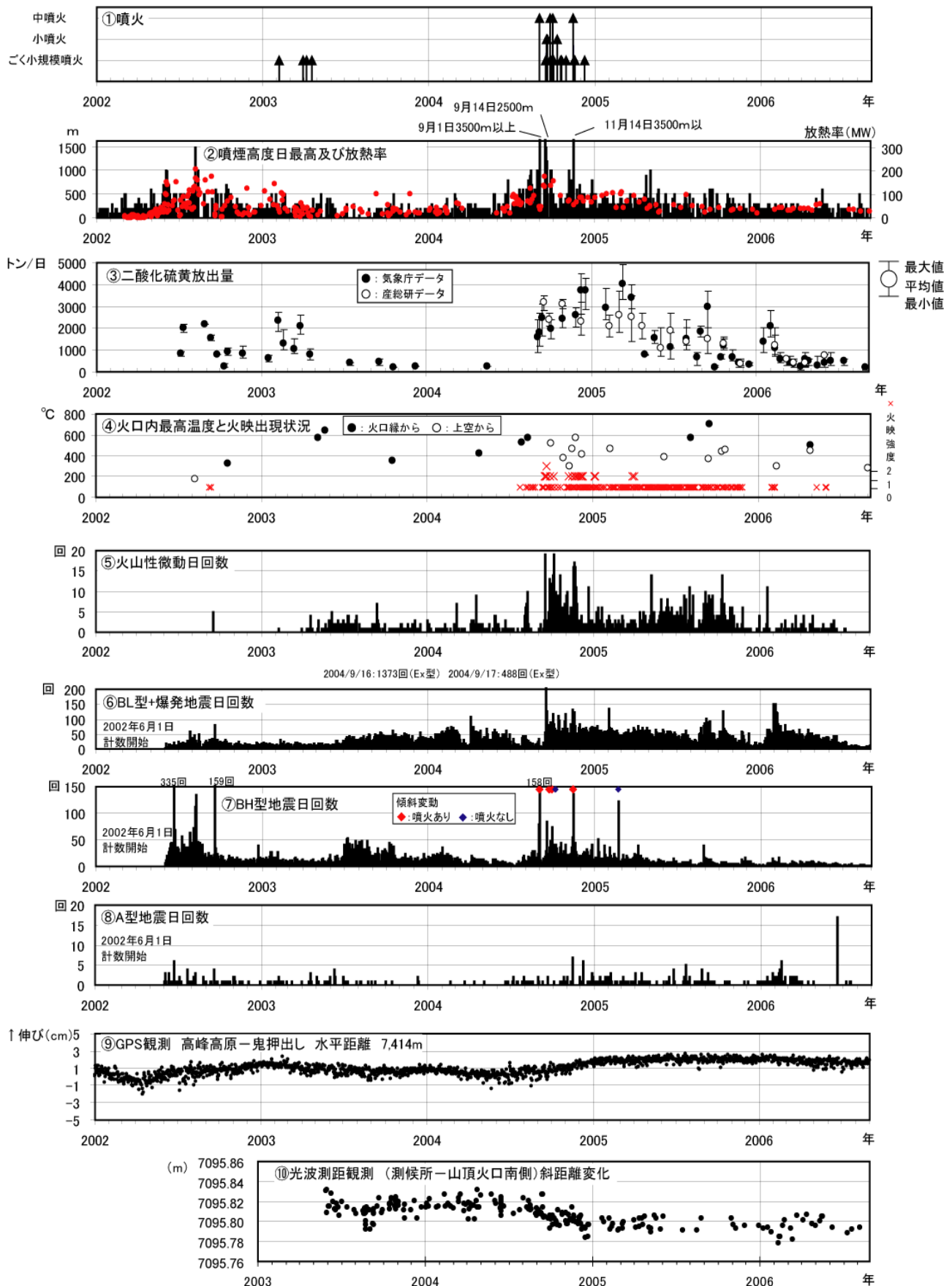


図 4 浅間山 最近の火山活動の推移（2002 年 1 月～2006 年 8 月）

の二酸化硫黄放出量グラフには産業技術総合研究所によるデータも含まれています。

、及び は、地震の種類別(図 6 参照)に計数を開始した 2002 年 6 月 1 日からのデータを掲載しています。

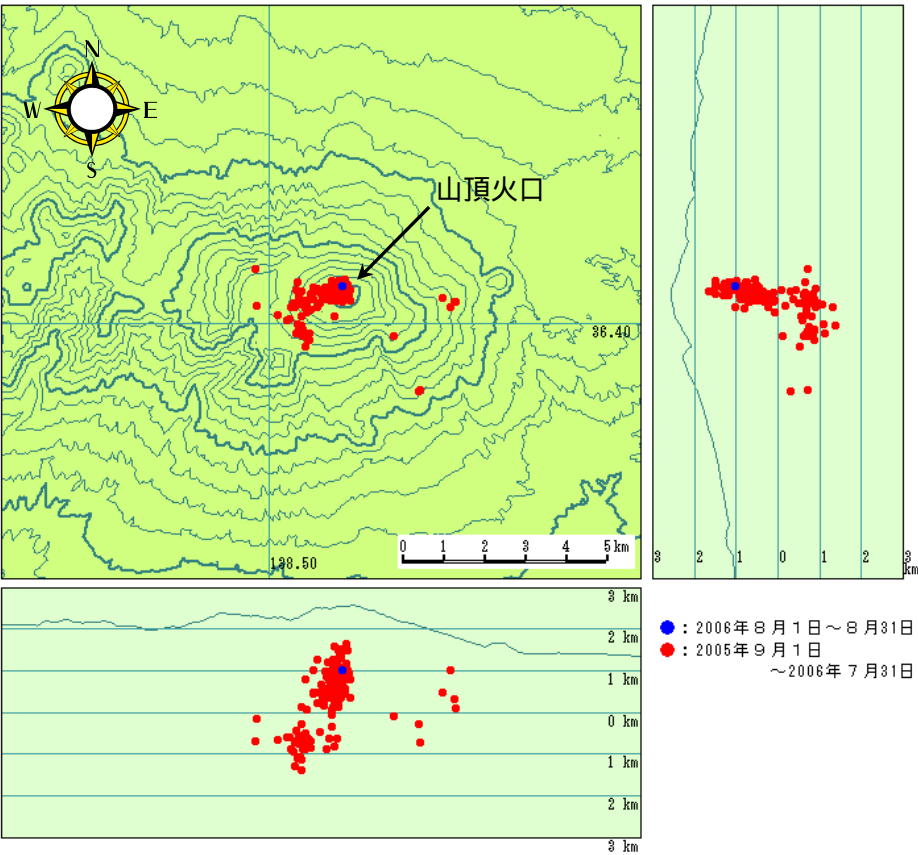


図 5 浅間山 火山性地震の震源分布（2005 年 9 月 1 日～2006 年 8 月 31 日）
震源計算には気象庁及び東京大学地震研究所のデータを使用しています。

○観測点情報

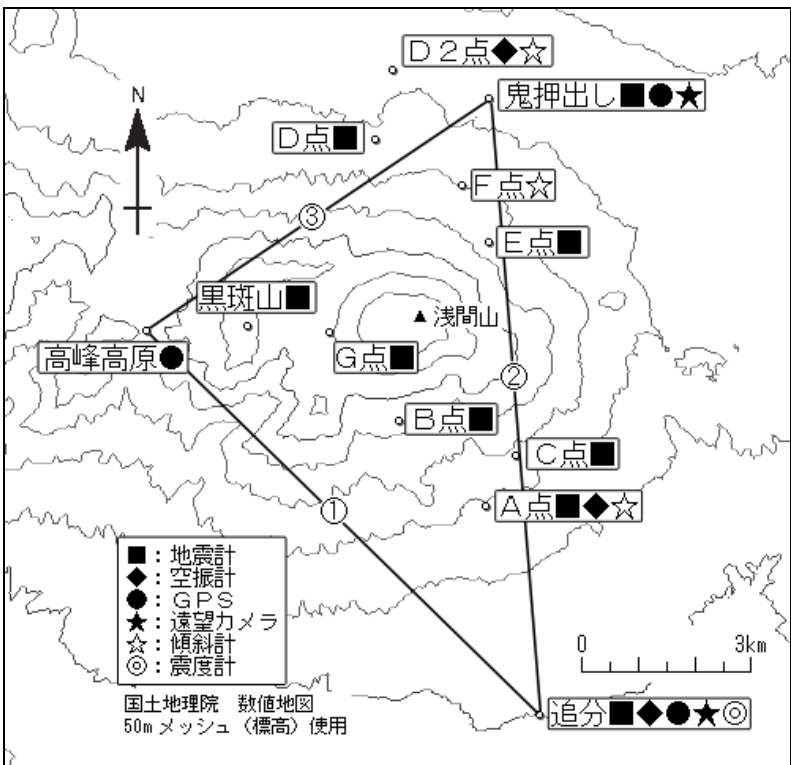


図 6 浅間山 気象庁の観測点配置図（小さな白丸は観測点位置を示しています）

表 2 浅間山 2006 年 8 月の火山活動状況

	噴火回数	火山性地震の回数 6)						微動回数	噴煙の状況 7)		火映強度 8)	備考
		A型	BH型	BL型	Ex型	その他	地震合計		日最高(m)	噴煙量		
1日	0	0	2	10	0	0	12	0	X	X	X	
2日	0	0	1	10	0	0	11	0	200	1	-	
3日	0	0	2	6	0	0	8	0	200	2	-	
4日	0	0	1	8	0	0	9	0	100	X	-	
5日	0	0	0	4	0	0	4	0	200	1	-	
6日	0	0	2	4	0	0	6	0	X	X	X	
7日	0	0	3	3	0	0	6	0	500	X	X	
8日	0	0	1	6	0	0	7	0	200	2	-	
9日	0	0	2	4	0	0	6	0	X	X	-	
10日	0	0	1	7	0	0	8	0	100	1	-	
11日	0	0	1	3	0	0	4	0	300	1	-	
12日	0	0	2	6	0	0	8	0	100	X	-	
13日	0	0	3	7	0	0	10	0	X	X	-	
14日	0	0	0	4	0	0	4	0	X	X	X	
15日	0	0	3	5	0	0	8	0	200	2	X	
16日	0	0	1	7	0	0	8	0	X	X	X	
17日	0	0	1	4	0	0	5	0	X	X	X	
18日	0	0	1	3	0	0	4	0	X	X	X	
19日	0	0	0	7	0	0	7	0	X	X	X	
20日	0	0	1	4	0	0	5	0	X	X	X	
21日	0	0	2	5	0	0	7	0	X	X	-	
22日	0	0	1	5	0	0	6	0	X	X	-	
23日	0	0	2	10	0	0	12	0	200	2	-	
24日	0	0	0	10	0	0	10	0	X	X	-	
25日	0	0	0	9	0	0	9	0	200	X	-	
26日	0	0	1	3	0	0	4	0	X	X	X	
27日	0	0	0	2	0	0	2	0	X	X	X	
28日	0	0	0	7	0	0	7	0	X	X	X	
29日	0	0	0	4	0	0	4	0	X	X	-	SO ₂ 放出量: 100~200トン/日
30日	0	0	1	2	0	0	3	0	100	1	-	
31日	0	0	2	11	0	0	13	0	300	2	-	火口内最高温度約280℃
合計	0	0	37	180	0	0	217	0				

6) 計算基準: B点振幅 0.1 μ m 以上で S - P 時間 3 秒以内、火山性地震の種類は以下のとおりです。

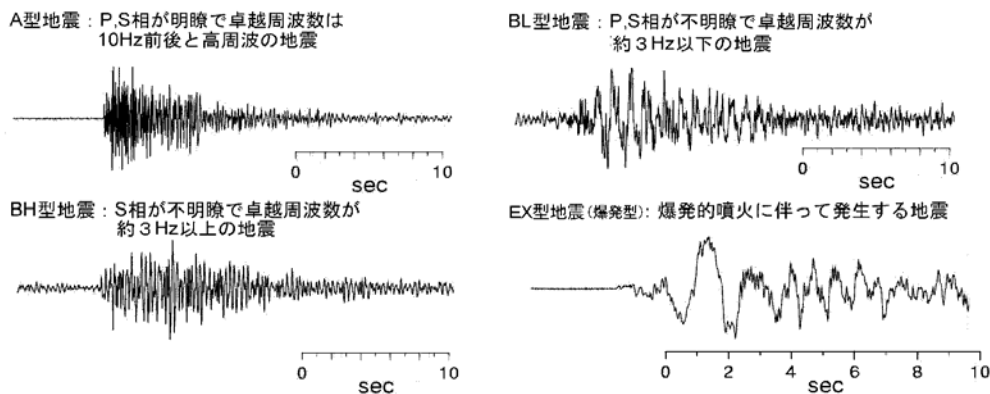


図 7 浅間山 主に発生している火山性地震の特徴と波形例

7) 噴煙の高さと噴煙量は定時観測(09時・15時)の日最大値です。噴煙量は以下の7階級で観測しています。

1: 極めて少量 2: 少量 3: 中量 4: やや多量 5: 多量 6: 極めて多量

7: 噴煙量 6 以上の大噴火。噴煙が山体を覆うぐらい多く、噴煙の高さは成層圏まで達したとみられる

8) 火映の強度は以下の4段階で観測しています。

0: 肉眼では確認できず、高感度カメラによってのみ確認できる程度

1: 肉眼でようやく認められる程度

2: 肉眼で明らかに認められる程度

3: 肉眼で非常に明るい色で異常に感じる程度

-: 火映なし

×: 視程不良(終日観測できなかった場合)